

LIBRARY



期末テストお疲れ様でした。まもなく夏休み！ 8月20日と21日、部活の期間ですが、図書館は一般の人に公開するという「東京・学校図書館スタンプラリー」に参加しています。20日の午後は、世小の齊藤先生と吉岡先生が「音楽ブックトーク」をしてくれます。良かったらぜひご参加ください。当日参加で大丈夫です。

『死んだ山田と教室』 金子玲介著 講談社 2024



8月29日、山田が交通事故死。クラスの人気者で、誰もが大好きだった山田がいない2Eの教室の空気は重たかった。担任の花浦が、臨時のホームルームを開き、生徒の気持ちをホローしようとするが空回り。そんな時、突然スピーカーから山田の声が！山田は2Eの面々を愛する故に、成仏できずなんとスピーカーに憑依してしまったらしい。クラスメートは山田とまた話せることを喜び、自分達だけの秘密にするために、おバカな合言葉を考える。山田の誕生日を全員で祝い、高2の終了式は、山田ともお別れか…と思ったが、山田は消えない！こんな小説あり？男子高校生のノリで大いに笑わせてもくれるが…。

『学校に行かない僕の学校』 尾崎英子著 ポプラ社 2024



中2の薫は、不登校を続けたあと、親元を離れ自らの意思で「東京ツリースクール」に入学する。子どもたちは部屋で勉強もするが、森や川でも遊ぶ。でも薫はけっして川には入ろうとしなかった。弟のような存在だった隣家のセアが川で亡くなったせいだ。同い年の銀河とイズミと薫は、互いの距離を測りながらも互いの心の内を言葉にすることで特別な存在になっていくのだが…。

『ぎんなみ商店街の事件簿』 井上真偽著 小学館 2024



同じタイトルの本が、実は2冊あるのです。こちらはブラザー編で、もう1冊はシスター編。舞台は同じ商店街なのですが、かたや4兄弟が事件の謎を解き、当然シスター編は3姉妹が謎と解いていく。片方だけ読んでもいいし、交互に読んでもいいし、もちろん続けて2冊読んでもよし…らしいのですが、未読の私には、いったいどういうこと？とってしまいます。noteに投稿していた方によれば、設定が秀逸さでとても読みやすいとのこと。何か面白いものを読みたい人におススメってことですね。

『博士はオカルトを信じない』 東川篤哉著 ポプラ社



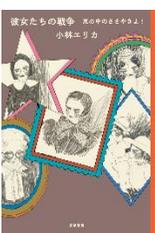
東川篤哉作品は、世中でもよく借りられています。こちらは新作ですが、主人公丘晴人は中学2年生。両親が探偵事務所をやっている関係で、地元の様々な事件に立ち会うことも少なくない。時に、これはどう考えても幽霊の仕業か？というような難事件がまいこむ。それを一緒に解決しようという相棒が、廃墟に住む、白衣を着た自称天才の女博士、暁ヒカル。ミステリはあまり読んでことがない…という人には、東川作品はおすすめです。ここからさらに、本格ミステリに足を踏み入れていく楽しみが！

『いきものづきあいルールブック』 水谷知生著 誠文堂新光社



自宅で、何らかのいきものを飼っている世中生、何割なのでしょうね。今度調査をしてみたいな。みなさんは人間以外のいきものと上手につきあえていますか？そもそも、つきあっていないし…と思っているあなた！知らない危険なルールが世の中にはたくさんあるんですね。やっていいこと、いけないこと、やらねばならないこと…。実はしっかり習う機会ってないかも。教科でいえば、これは理科？保体？社会？家庭科？なんかどれも関係しているようで、実はどこでも扱いにくいのかも。ぜひ読んでみてください。

『彼女たちの戦争』 小林エリカ著 筑摩書房 2024



戦争の多くは男たちが始めたものだと著者は言う。その戦争という嵐のなかで、女たちはもみくちやになりながら生き、そして死んだ。その声を、ささやきを伝えたいと、書かれた一冊です。28人の世界中によく知られた、あるいはまったく無名の女たちが取り上げられています。時代は大きく変わろうとしています。もう戦争を男たちだけのせいにはできないからこそ、読んでほしい。薄くて、取り上げた一人に対し、3ページしか本文はないが、後ろに引用・参考文献・資料がたっぷりついていて、著者の思いが伝わる。

『つながる読書』 小池陽慈著 ちくまプリマー新書 2024



読書の醍醐味のひとつは、芋づる式に面白い本を見つけられることでしょう。でも、日頃それほど本を読んでいないと、もしかしたら次の本を見つけるのは案外難しいのかもしれない。この本は、誰もが認めるような本好きなプロフェッショナルが、10代に読んでほしい本を、文字の形でプレゼンをしています。その本が、自分の人生にどんな影響を与えたのかを熱く語ってくれる本。

『文房具の解剖図鑑』 ヨシムラマリナトヨオカアキヒコ著 イクストレッツ



文房具カフェで、渡邊先生イチオシの本をさっそく購入しました。文房具の多くは、ヨーロッパやアメリカで生まれたけれど、創意工夫が好きで生真面目な日本人によって、より使いやすく改良され、高品質になり、今や日本の文房具は、世界最高水準と言えそうです。性能の割にはけっこう安価な文房具を私たちは、無造作につかっていたりしますが、文房具の奥深い世界を知ると、ペン一本にもこだわりたくなる気持ちわかります。ちなみに私はノート好き！

『のぞいてごらん おとぎのせかい』 青山邦彦作 フレーベル社



著者は元建築家。誰もが知っているおとぎの世界を絵にした楽しい一冊。著者のインタビューを読んだら、建築事務所で、ホテルの建築・施工を任された時に1日も欠かさず建築現場の絵を描き続け、それを1冊に本にしてしまったという。コンペに応募した時も、なんだか自分の設計図だけ絵本のように、浮いている。自分がやりたかったことは建築ではなくて絵をかくことだとその時気づき、絵本作家に転職。以来、素敵な絵本を描き続けているが、建築家だけに、出版社や編集から家に纏わるものを描いてほしいという依頼も多いとか。

6月にはいった本の一部です。リクエストは常時受け付けています。

登録番号	NDC	書名	著者名1	出版者
039763	329	国連で働く	植木安弘 編著	岩波書店
039790	336	「能力」の生きづらさをほぐす	勅使川原真衣	どく社
039713	350	統計でウソをつく法	ダレル・ハフ 著	講談社
039705	365	まんがでわかるだましの手口	佐藤正明	東京新聞
039729	498	食べる時間でこんなに変わる時間栄養学入門	柴田重信 著	講談社
039728	498	ウォーキングの科学	能勢博	講談社
039743	533	世界で一番美しいエンジン図鑑	セオドア・グレイ	創元社
039640	611	食べものから学ぶ現代社会	平賀緑	岩波書店
039744	645	ブタ	デイジー・バード	化学同人
039768	726	マリコ、うまくいくよ	益田ミリ 著	新潮社
039830	762	にはほんのうた	みの	KADOKAWA
039730	782	ランニングする前に読む本	田中宏暁 著	講談社
039708	788	怪物に出会った日	森合正範 著	講談社
039770	798	デジタルゲーム研究	吉田寛 著	東京大学出版会
039741	816	書く習慣	いしかわゆき	クロスメディア
039703	910	新編本日もいとをかし!!枕草子	小迎裕美子	KADOKAWA
039772	913	パイパイ・ママイヤ	乗代雄介	小学館
039752	913	女の子たち風船爆弾をつくる	小林エリカ	文藝春秋
039739	913	みどりいせき	大田ステファニー欽人	集英社



78 回生社会 南アメリカ州の現代的課題を考える



地理の授業で、南アメリカ州の現代的な課題について調べました。差別や、格差、環境破壊など、どれも根が深い問題です。図書館でも資料を用意し分類記号順に並べて別置。ネットで検索するのは違い、図書はテーマが同じでも、違う分類記号がついていることも多い。複数の本を使うというのは、視点を変えて物事を見ることにも通じるので、ぜひ、ネットも本も両方使ってほしいです。

78 回生国語 短歌を詠む



付箋がたくさんついた段ボールに入った本は、木下龍也さんから寄贈された短歌の本。阿部先生から各自に渡された運命の1冊から心に響いた短歌を一首選ぶはずが、「1首だけなんて選べない」という声上がり、気に入った作品に付箋をはったら、こんなことに！付箋が貼られた短歌の本も喜んでいることでしょう。

6月のブックカフェ報告

6月10日(月)「世中で一番文房具にうるさい渡邊先生による文房具会議」



文房具の歴史も交えながら、興味深いお話をたっぷり。特に文房具は実用品なため、使い心地がとても重要で、それを身をもって味わうことが可能なので、説得力があります。それに文房具はたいていものすごく高価なのはごく一部の商品で、たいていは爆発的ヒットが期待できる値段に設定してあるし。参加者から、ぜひ第2弾も！という熱い要望が出ました。きっと2学期に続編があると思います。

6月12日(水)「9.11テロから23年 住山一貞さんをお迎えして」

外部からのお客様や、篠塚先生・秋山先生・岡田先生も参加してくださり、2時間弱お話を伺いました。ご子息の中学時代の写真も見せてくださって、まさにこれからという30代で先立たれてしまったご両親の哀しみは、けっして癒えることはないのですが、若い皆さんにお話ができて嬉しかったとお礼のメールをいただきました。



6月19日(水)『ここはすべての夜明けまえ』ミニ読書会

早川書房から3名の方が来て、ミニ読書会を実施しました。最後まで読んだグループと、途中までのグループに分かれましたが、どのグループも、いろいろな話で盛り上がり、楽しかったようです。

この本の編集を担当した溝口さんのお話や、最後は早川書房に勤務する3名のかたに、まるでキャリア教育の時間のような質問も。読書会は、不定期ながらも、定番の行事になるといいなと思いました。

